

城南信用金庫が地域社会を力強く支える

リード：城南信用金庫は、AI、サステナビリティ、そして地域連携を通じて、日本の中小企業を支える「地域第一」の使命をさらに広げている。

引用：「私たちの使命は、地域の皆さまと地域社会に価値を還元することです。」
城南信用金庫 理事長 林 稔

文 ダニエル・デ・ボムフォード

本文：

復興の中で築かれた、地域金融機関としての原点

地域が力を合わせると、実に驚くべきことを成し遂げることができる。80年前、東京はゼロから復興を進めており、その中で城南信用金庫は自らの存在意義を築いた。信用金庫とは、地域住民や中小企業にサービスを提供し、価値を地域に還元することで地域経済を支える、協同組織の地域密着型金融機関である。

相互扶助と価値還元に根ざす使命

林稔理事長は、同金庫の使命は相互扶助と地域への価値還元根ざしていると語る。「それが私たちの基本理念であり、共創への取り組み、私たちが提供する付加価値、そしてさまざまなサービスに反映されています」と同氏は述べた。

金融の枠を超え、地域をつなぐプラットフォームへ

2026年、同金庫は新たなスローガンとして「地域とコミュニティのプラットフォームを目指す」を掲げた。城南信用金庫は、従来の金融の枠を超えて、人と企業をつなげている。金融、ビジネスマッチング、DX、人材、サステナビリティ、さらには外部との連携を活用し、単なる金融機関から、人や企業を結び付けるハブへと役割を広げ、地域課題を解決するためのインフラとして機能しようとしている。

全国を結ぶ「よい仕事おこしフェア」の広がり

その使命が最もよく表れているのが、「よい仕事おこしフェア」だろう。このフェアは全国の信用金庫を結集し、対面イベントとオンラインネットワークを通じて、地域や業種を超えた企業同士のマッチングを行うプラットフォームへと発展してきた。2012年、東日本大震災を受け、地域活性化と災害支援をテーマに始まったこの取り組みでは、昨年、全国から延べ2万4,000人以上が東京ビッグサイトに集い、4,000件を超える商談が生まれた。

生成 AI を共同研究し、信用金庫全体の力を高める

デジタルトランスフォーメーション（DX）の時代においても地域の精神を大切にしながら、城南信用金庫は生成 AI の活用に関する信用金庫共同研究プロジェクト（GEN x Shinkin Lab）を主導している。「他の信用金庫と共同で取り組みを立ち上げた理由はシンプルです。各機関が不要な負担を抱えたり、同じ作業を重複して行ったりするよりも、一緒にできることは一緒にやったほうが、はるかに速く前に進めるからです」と林氏は語った。

中小企業の DX を支える、信用金庫ならではの強み

この取り組みは、京都中央信用金庫と城南信用金庫の連携として始まり、その後 37 の機関へと広がった。これだけ多くの金融機関が協力することで、イノベーションのスピードは加速し、城南信用金庫自身も社内のデジタルおよび AI の能力を高めてきた。中小企業に最も近い金融機関である信用金庫は、こうした力を生かし、企業の AI 活用や DX 推進を支える理想的なパートナーとなっている。

自ら実践するからこそ伝わる、サステナビリティ支援

城南信用金庫は、サステナビリティの分野でも自ら率先して行動している。日本の銀行業界で唯一 RE100 に参加している金融機関であり、保有する支店やオフィスで使用する電力のほぼすべてを再生可能エネルギーに切り替え、残る分は J-クレジットでオフセットしている。こうした実績があるからこそ、地域の中小企業に対して、サステナビリティ・リンク・ローン、省エネ、排出削減、移行計画の策定などを支援する際にも、高い説得力を持つのである。

大手企業との共創で探る、地域活性化の新サービス

さらに、城南信用金庫は、日本アイ・ビー・エム株式会社と連携し、同社と株式会社日立製作所、アマゾン ウェブ サービスが進める共創の枠組みを活用し、地域活性化に向けた新たなサービス創出の可能性を検討する取り組みを開始する。

助け合いを貫く姿勢が、信頼と共感を生む

利益優先の金融が重視されがちな業界にあって、城南信用金庫は、地域の課題解決や助け合いを重視する姿勢を貫いている。信用金庫の本質とは、地域のために何ができるのかを問い続け、それを具体的な行動に移すことです」と林氏は語る。「それをきちんと実践すれば、お客さまは私たちに共感し、信頼を寄せてくださり、取引も自然と広がってくるのです。」